

情報モラル教育実践授業報告書 2

対象学年	中学校 3 年生
領 域	道徳
指導項目	C－(14) 家族愛，家庭生活の充実
実践のねらい	情報機器の望ましい利用の仕方について自分の生活を見直し，適切に扱おうとする態度を育てる。

情報モラル指導モデルカリキュラム (http://kayoo.org/moral-guidebook/model/model-curriculum.html)			
指 導 分 野	安全への知恵		
コ ー ド	f 4－2	指 導 事 項	自他の安全面に配慮した，情報メディアとの関わり方を意識し，行動できる。

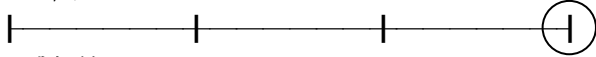
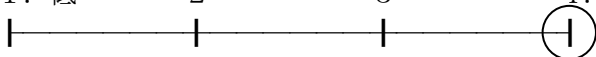
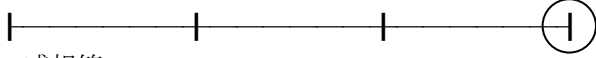
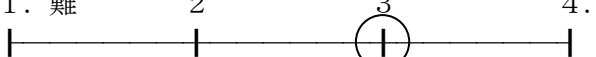
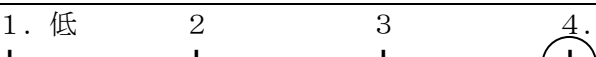
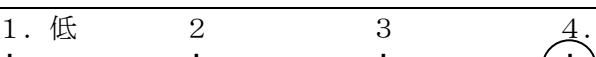
授業前の生徒の状況	情報モラルに関するルールやマナーについて学んでおり，改めて適切な情報機器の扱い方について考えさせたい時期。
生徒の心理的成長過程に応じた指導の工夫	- 中学生の時期は，家族の愛情をうっとうしく感じたり，干渉を嫌って反抗的になったりすることがある。その中で，中学3年生の頃には，家族の言動の一つ一つから愛情を感じとることができるようになってくる。 - 本実践では，グループでの話し合い活動を行い，さまざまな見方や考え方を知り，家族との約束事について多面的・多角的に考えることで，そこに込められた家族の愛情について考えさせる。
期待される生徒の変容（ねらい）	情報機器の望ましい利用の仕方について，自分の生活を見直し，家族の思いを大切にしながら，適切な言動をしようとする。
生徒の変容を促すための授業の工夫（ポイント）	- 情報モラルに関わる題材を扱いながら，情報機器の望ましい利用の仕方について自分の生活を見直し，適切に扱おうとする道徳的心情を育む。 - 家族との約束の意義を考え，親の愛情を大切にしようとする生徒の生活実践につなげる。
利用するコンテンツ等（サイトのアドレス）または資料等	「母から子への iPhone18 の約束」（Kindle 版） 子どもたちを危険なネット環境から守る会（ゴマブックス）
授業の成果	- 家族や友人との関わりを大切にするためにも，情報機器を適切に扱おうとする生徒の姿勢を育てることができた。 - 自己の振り返りにおいて，情報機器の望ましい利用の仕方について自分の生活を見直し，家族との約束事の大切さに触れながら，今後の目指す姿を述べる生徒が多かった。

授業の課題と改善案	・導入で、各家庭でのスマートフォンに関する約束事についてのアンケートを行った。 ・自分のスマートフォンを持っていない生徒にとっては、考えにくい様子だったので、誰にでも答えられる形で、「スマートフォンを扱うときに、どんな家族との約束事があるとよいだろうか」という問いかけができるとういと感じた。
-----------	---

生徒の感想

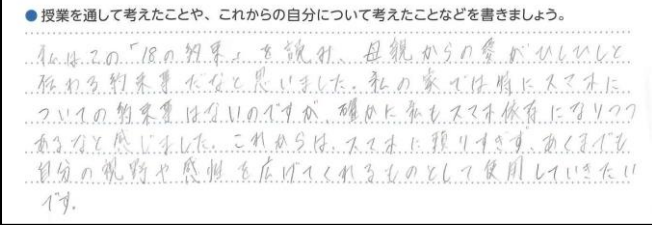
- ・親などからの期待を裏切らないように、うまく情報機器を活用して成長できるようになりたい。
- ・スマートフォンが人生の全てとは思わず、画面の外に広がる世界にも目を向けて、友達との会話も大切にこれから的人生を生きていきたい。
- ・自分の将来を考えて責任をもって使用することやスマホにしばられることなく自分なりの規則をもっていくことを心掛けていくとよいと思った。
- ・親と決めたルールや友人との関係を悪くするようなことがないように気をつけて使っていきたいと改めて思った。
- ・スマホなどの電子機器の影響で、ふだんの生活がくずれるのが一番いけないことだと思うので、自分の生活そのものを変えてしまわないように心掛けるとよいと思う。
- ・自分だけでなく、親や友達など周りの人の気持ちを考えて、送るメッセージを考えたいと思う。
- ・スマホは自分の人生の全てではないので、スマホばかりにとらわれるのではなく、自分をしっかりとをもって、体験を大切にしながら成長していきたい。
- ・「18 の約束」を読み、母親からの愛がひしひしと伝わる約束事だと思った。私の家では特にスマホについての約束事は無いですが、スマホに頼りすぎず、自分の視野や感性を広げていく物として使用していきたい。
- ・自分のことを考えてくれている家族に感謝しながら、情報機器を扱おうと思った。
- ・家庭の約束事は、親の愛情でもあるということが分かったので、きちんと守ろうと思う。
- ・スマホの中でしか言えないことをSNSやメールで送ることで傷つく人がいるから気を付けたい。
- ・親との約束はもちろん、自分が上手にスマホを使うために自分でもルールを決めて、扱うとよいと思った。
- ・スマホを使うときのルールには親の愛情が込められていることを知り、ルールを守ろうと改めて思った。
- ・スマホから学ぶことはたくさんあるけど、スマホにとらわれないようにしたい。
- ・他人に迷惑をかけないようにスマホの使い方を考え、親が何のためにスマホを買ってくれたのかを考えて使いたいと思った。
- ・スマホばかりではなく、きちんと家族と話すことを大切にしていきたい。
- ・スマホを使うことでよい方向に自分自身が成長できるように使いたい。
- ・自分の親の分の責任も背負っていることを忘れずにスマホを使うとよいと思う。
- ・スマホにとらわれるのではなく、周りとの人間関係、コミュニケーション、経験を大切にしたいと思った。

情報モラル教育の授業実践評価

生徒について	生徒の 興味関心の度合い	1. 低 2 3 4. 高  理由・感想等 実生活に結び付いたスマートフォンの扱い方について具体的な事例を扱っている資料で中学生の関心が高い内容である。
	生徒の理解度	1. 低 2 3 4. 高  理由・感想等 発問に対する生徒の意見は、本時のねらいとする道徳的価値にせまっているものが多く、内容理解も深まり、活発な意見交換がされた。
	生徒の 変容の度合い	1. 低 2 3 4. 高  理由・感想等 自己の振り返りでは、情報機器の望ましい利用の仕方について自分の生活を見直し、家族との約束事の大切さに触れながら、今後の目指す姿を述べる生徒が多かった。
授業について	事前準備の難易度	1. 難 2 3 4. 易  理由・感想等 本実践では、ワークシートとプレゼンテーションを使用した。価値への方向付けが大切になる授業なので、丁寧な準備をすることで学習活動が活発になる。
	指導者にとっての 授業展開の難易度	1. 難 2 3 4. 易  理由・感想等 発問に対する生徒の意見が多様であるほど、価値の追求に深まりが見られる教材で、指導者の意図する授業展開に運びやすい。
	授業の「ねらい」の 達成度	1. 低 2 3 4. 高  理由・感想等 家族との約束の意義やそこに込められた親の愛情について深く考えつつ、情報機器の望ましい利用の仕方について考えさせることができる。
	指導方法の 効果の度合い	1. 低 2 3 4. 高  理由・感想等 本実践では資料のさまざまな部分に込められている親の愛情について考える場面でグループでの話し合いを行うことで、適切な情報機器の扱い方について多面的・多角的に捉えさせることができた。
<実践の感想及び反省点等> 生徒自身の家庭生活と資料の内容とを比較しながら考えられる授業となり、理解が得られやすかった。道徳的心情を育みつつ、情報モラルに関する判断力を付けさせることができた。情報モラルに関するさまざまなルールやマナーについて学んでいる中学2・3年生の授業として実施するとよいと感じた。		

情報モラル教育の授業実践例

配当時間	学習のすすめ方	指導のポイント
導入 14分	1 家族との約束にどのようなものがあるか考え、「我が家の約束事」を一口意見カードに記入する。 一口意見カード 記入者氏名 () 『我が家の約束事』 2 本時のめあてを確認する。 スマートフォンや情報機器を扱うときの心掛けについて考えましょう。 3 挙手制のアンケートをとり、実態把握をする。 質問① スマートフォンを保護者に預ける時間帯がありますか。 質問② スマートフォンには、フィルタリングをかけていますか。	- 一口意見カードの内容を教師が発表し、価値への方向付けを図る。 - 自分のスマートフォンを持っていない生徒については、もし持っていた場合を考えて答えさせる。
展開 28分	4 iPhone18の約束を読み、内容について話し合う。 道徳『スマホを使うための「18の約束」』ワークシート 話し合い① 話し合い②  母親の気持ちがとても込められている約束は、どれでしょう。 - 子どもの安全・健康のことを考えている，④。 - 友達とのコミュニケーションの大切さを伝えようとしている，⑤。 - 他人のことを考えられるようになってほしいという願いの込められた，⑦。 - 自分や友達のことを大切にさせようとしていて，子どものことを信頼している，⑨。 - 子どもの失敗を受け止め，家族の一員として大切に考えている，⑯。	- 各発問において、グループの考えをワークシートにまとめたうえで、学級で意見交換をさせる。 - 母親の子に対する愛情が「iPhone18の約束」のさまざまな部分に込められていることを確認する。

展開		母親は、どのような思いで iPhone18 の約束を渡したのでしょうか。	
		・ 社会に出たときに、恥ずかしくないように成長してほしい。 ・ 子どもをネット社会から守りたい。 ・ スマートフォンに支配されるような人になってほしくない。 ・ 責任をもって、自分の物が使える子になってほしい。 ・ 将来、大人になったときにもルールを守れるように、子どもの内からルールを守らせたい。	・ 子の安全や健康を願う母親の思いに気付かせる。
まとめ	8分	5 自分の生活を振り返り、自己を見つめる。	・ 座席配置を戻して、道徳振り返りカードを配付する。
		スマートフォンや情報機器を扱うときに、どのようなことを心掛けて使うとよいと思うか、書きましょう。 ● 授業を通して考えたことや、これからの自分について考えたことなどを書きましょう。  6 教師の話を聞く。	・ iPhone18 の約束の後に書かれていたメッセージを紹介し、母親の思いを確認する。 ・ 学級の生徒に、情報機器の望ましい利用の仕方を考えながら生活してほしいことを伝える。

情報モラル教育を広げるための方策と課題

情報モラル教育を広げるための実践	・ 10 月に外部講師を招き、スマホ・ケータイ安全教室を行った。電子黒板を用いて、全教室に双方向の配信をし、全校への広がりを図った。 ・ 本道徳実践を、校内の公開授業とし、他の教師にモデル授業として参観してもらった。また、本道徳実践を参考にして、各担任がアレンジを加えて、同様の実践を行った。	 
情報モラル教育を広げるための課題	・ 家庭生活においても学校生活においても情報機器が急速に普及しているため、保護者と教師の情報共有をし、早い段階で生徒の状況をとらえて、指導に生かせる体制づくりが必要だと考える。	